

日本海海戦110周年記念式典
第7艦隊司令官トーマス中将祝辞

吉田横須賀市長、増田三笠保存会会長、武居海上幕僚長他海上自衛隊上級指揮官各位(鮎田自衛艦隊司令官、井上横須賀地方総監、鍛冶潜水艦隊司令官)及び御来賓の皆様、本日この席に出席させて頂きましたことに感謝致します。日本海海戦における軍艦三笠の活躍を記念するこの式典に参加できましたことは私にとり非常に光栄なことであります。

本日、皆様と共に参集しておりますこの艦は、我々に歴史を伝えております。(新旧の)三笠保存会の皆様は、約90年間にわたり、戦艦「三笠」が国家のために尽くした偉業の語り部として、記念艦の保存と共に努力してこられました。三笠保存会の素晴らしい業績によってこそ、本艦の栄光を記憶に留めることができるのであります。

米国海軍と第7艦隊は、記念艦「三笠」の保存維持のため一役を果たしております。米海軍のチェスター・ニミツ元帥は、米海軍作戦部長の職を退いた後、1955年から1961年にかけて、三笠保存のためのキャンペーンに携わられました。2009年の夏には、米海軍の空母「ニミツ」が横須賀に寄港中、東郷・ニミツ両提督の関係を強調する幾つかの行事に関与しました。空母「ニミツ」の乗員はこの有名な戦艦の外舷塗装を行い、その艦上で三笠保存会、空母「ニミツ」及び海上自衛隊共催による艦上レセプションが行われました。

我々が、家族や友人とこの記念艦「三笠」を見学する時、自由を守るために東郷大将が発せられた“各員一層奮励努力せよ”という命令を思い起こします。この東郷大将の命令は、不確かな世界に生きる我々にも示唆を与えてくれます。

米国第7艦隊は、海上自衛隊との緊密な連携を誇りに思っております。我々は、この70年間、相互に連携し活動、訓練そして作戦を実施し、インドからアジアそして太平洋に亘る海域における平和と安定維持を支援してきました。我々はこの海域を我々のホーム(根拠地)と呼べることは幸運であり、この周辺隣国に対する長期にわたる責務の遂行を誇りに思うものであります。

最後に重ねて、このような機会に祝辞を述べさせて頂くことが出来ましたことに感謝申し上げます。

(概訳:三笠保存会)